

■ N'2020 Planの実現に向けた  
**「アクションプラン」**年次報告書  
(平成25年度 — 平成26年度)



学校法人二松學舎

<http://www.nishogakusha-u.ac.jp/>

# はじめに

学校法人二松學舎は、平成24年10月10日、創立135周年を機に、本学の2020年(平成32年)のあるべき姿を描いた長期ビジョン「N'2020 Plan」を策定し、その中で、建学の精神の現代的解釈と、建学の精神に沿った育成すべき人材像の明確化を図り、当該人材像を育成するための教育・研究のあり方などの施策を抽出し、課題として織り込みました。

平成25年度には、この長期ビジョン「N'2020 Plan」を実現するための5カ年の具体的な行動計画を策定し、「アクションプラン」と名付け、本年3月で計画の2年目が終了しました。

「アクションプラン」には、長期ビジョンに掲載した課題はもちろん、過去に本学が取り組んだ経営計画である「マスタープラン」で残された課題、更には理事や役職教職員の意見を盛り込み、学校法人全体の課題を、「6つの柱、70の課題、180のアクション」に分類致しました。

また、個々の課題について、担当理事・関係会議・推進部署が連携して解決に向けて取り組むための行動計画とスケジュールを定めた「全学アクションプラン」と、事務組織の各部署が取り組むべき具体的な業務目標にブレイクダウンした「課別アクションプラン」を重層的に策定しており、それぞれの課題についてPDCAを確立し、責任体制を明確化させ、確実な目標達成を目指しています。

この「年次報告書」は、平成25年度に策定した「アクションプラン」の概要、並びにPDCAを行った結果を踏まえて一部内容を改訂した「平成26年度版アクションプラン」の概要とその進捗状況について、本学に関わる学生・生徒、父母、OB、役員、評議員、教職員、企業などステークホルダーの皆様方に対してご報告申し上げ、引き続きご支援とご指導を賜ることを目的として発行致しました。

今後とも本学の長期ビジョン実現に向けて、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、「アクションプラン年次報告書」の発行に当たってのご挨拶とさせていただきます。

平成27年4月吉日

学校法人二松學舎

理事長 水戸英則





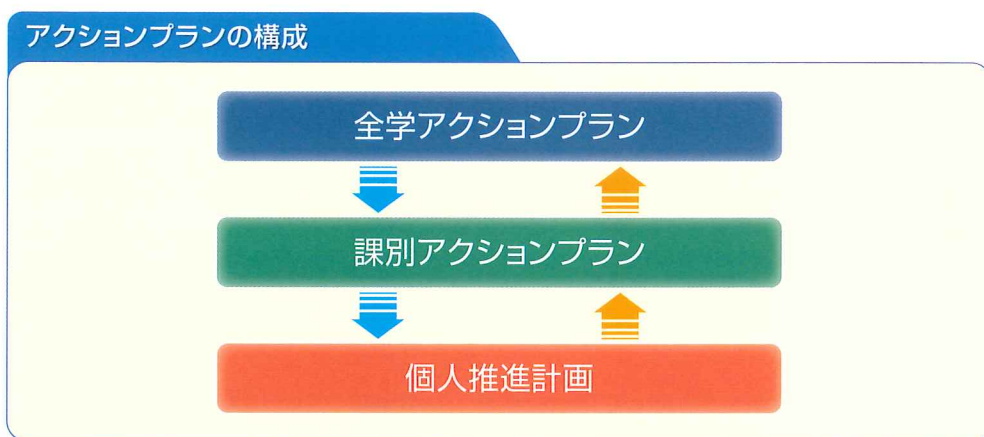
## Contents 目次

<b>1.</b> <u>アクションプランの構成と進捗管理</u>	3
<b>2.</b> <u>アクションプラン(平成25年度版)の概要</u>	5
<b>3.</b> <u>アクションプラン(平成25年度版)の進捗とその成果</u>	8
<b>4.</b> <u>アクションプラン(平成26年度版)の概要</u>	9
<b>5.</b> <u>アクションプラン(平成26年度版)の進捗とその成果</u>	12
<b>6.</b> <u>平成27年度に向けて</u>	13

# アクションプランの構成と進捗管理

## 1 アクションプランの構成と平成25年度版策定までのフロー

本学のアクションプランは、長期ビジョン実現に向けた全学的課題と行動計画を一覧化した「全学アクションプラン」と、各事務担当部署の諸課題を向こう5年間の行動計画にまとめた「課別アクションプラン」の2層構造となっています。また、「課別アクションプラン」の課題を、個人が担当する業務にまでブレイクダウンさせ、個人毎の推進計画として設定しています。それぞれの概要は、次の通りです。



### 1 全学アクションプラン

「N'2020 Plan」掲載の全課題、また本学が過去に策定した中期計画である「マスタープラン」の未解決課題、更に、理事やアクションプラン推進管理委員会委員からの有意義な意見を織り込み、整理して取り纏めたものが「全学アクションプラン」です。

「全学アクションプラン」には、「担当理事等」・「担当部課」・「関係会議等」・「最終目標(2020年度の姿)」・「数値目標」・「5カ年の年次推進計画(平成25～29各年度)」を織り込んでいます。

### 2 課別アクションプラン

上記の「全学アクションプラン」に掲げた「担当部課」が、それぞれの所掌する課題について「課別アクションプラン」の原案を作成しました。複数部署にまたがる課題で、担当部署毎に考え方が異なるものについては、事務局で調整を行い一部修正、「関係会議等」・「数値目標」は担当部署と事務局で協議を行い「課別アクションプラン」として確定し、ここでの調整を「全学アクションプラン」に反映しました。

また、各課で平成25年度計画についての「実行計画スケジュール表」を作成、課題達成に向けた行動と達成時期を具体的に明示することにしました。

### 3 個人推進計画

事務職員は、「課別アクションプラン」をもとに、各自の「行動目標」を年度毎に設定しています。「行動目標」は、各年度終了時に上司が達成度に応じて評価を行い、その評価結果を期末手当に反映することになっています。評価はプラス評価のみを行い、マイナス評価は行わないことにしています。

## 2 アクションプランの進捗管理

アクションプランの進捗管理は、次のような体制で行っています。

### 1 管理体制の整備

アクションプラン全般の進捗管理を所掌する委員会として「アクションプラン推進管理委員会」を設け、原則月1回開催して進捗状況の報告・確認を行っています。この委員会で委員から示された意見で、計画に反映すべきものは適宜「全学アクションプラン」に織り込み、修正を行っています。また、事務職員の管理職を構成員として毎月開催する「部課長会議」で、アクションプランに関する報告や確認、複数部署間の連携について調整を行っています。

更に、原則として毎月開催される理事会においては、「全学アクションプラン」全体の進捗状況が報告されるとともに、毎回2～3人の理事が輪番で、担当課題の進捗状況を報告しています。

### 2 経営層と部課長とのミーティング

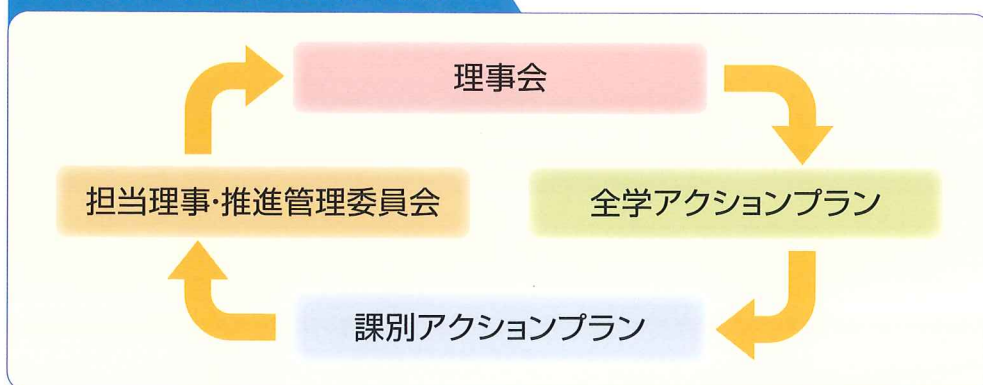
年度終了後に、常任理事・事務局長等の経営層と事務組織の部課長とのミーティングを行い、各部署の「課別アクションプラン」進捗状況、今後に向けた取り組み方針等について、意見交換を行っています。このミーティングは、各部署が直面している重要な課題についても議論し、経営層と現場との情報の共有を図り、「アクションプラン」をコミュニケーションツール(情報伝達・意識共有化の手段)の一つとして活用しています。

### 3 アクションプランのPDCAサイクルについて

本学の「アクションプラン」に係るPDCAサイクルは、まず「課別アクションプラン」に各部署が掲げた具体的課題について、学内のグループウェア上に作られた「アクションプラン管理システム」に各課長が年度終了時に進捗状況を入力します。次に、課題毎に定めた「担当理事等」が各課題の進捗状況についてコメントを付し、その結果を「アクションプラン推進管理委員会」で検討を行い、最終的には理事会での審議を経て、次年度版の「全学アクションプラン」の見直しへと繋げております。

このようなPDCAサイクルを確立することによって、年度毎に見直し策定する本学の「全学アクションプラン」に、時代の要請や環境の変化を速やかに取り込むことが可能となっています。

#### アクションプランのPDCAサイクル



# アクションプラン(平成25年度版)の概要

## 1 全学アクションプラン

平成25年度の「全学アクションプラン」には、本学の様々な課題を網羅的に掲載しています。課題は、大きく「建学の精神と二松學舎憲章」、「大学・高校・中学共通の教育改革」、「二松學舎大学・大学院の教育改革」、「附属高校の教育改革」、「附属柏中学校・高校の教育改革」、「財務、人材育成、評価、組織、広報、その他」の6つに分け、更に重要度などに応じ「大分類課題」、「中分類課題」、「小分類課題」に分類、整理しました。

### 全学アクションプランの概要

全学アクションプランの6つの柱	全学アクションプランに掲げた課題の数		
	大分類	中分類	小分類
I.建学の精神と二松學舎憲章	3	4	5
II.大学・高校・中学共通の教育改革	1	2	7
III.二松學舎大学・大学院の教育改革	7	29	103
IV.附属高校の教育改革	3	9	22
V.附属柏中学校・高校の教育改革	3	10	26
VI.財務、人材育成、評価、組織、広報、その他	7	16	33

全学アクションプランに掲げた、大分類の課題は次の通りです。

### I 建学の精神と二松學舎憲章

No.	大項目	内容
1	建学の精神	建学の精神を学内外に浸透させ、本学のブランドイメージを向上させます。
2	二松學舎憲章	教職員一丸となって長期ビジョンの実現を目指すための行動規範を定めます。
3	二松學舎史編纂事業と周年事業	創立150周年に向けて、本学の150周年史の編纂を行います。

### II 大学・高校・中学共通の教育改革

No.	大項目	内容
1	各設置学校間の連携強化	学校法人が設置する、大学、高校、中学の各学校間の連携を強化し、二松學舎全体で長期ビジョン実現に向けて改革を推進します。

### III 二松學舎大学・大学院の教育改革

No.	大項目	内容
1	大学のフレーム	現行、2学部・3学科の教育組織について、将来への対応を検討します。
2	大学のマネジメント	学長のガバナンスを強化し、「教育の質的転換」を推進します。

No.	大項目	内容
3	大学の教育改革	カリキュラム改革、シラバスの充実、グローバル化対応、ICT設備等の積極的導入等を行います。
4	大学院の教育改革	教員・研究者・専門的職業人の養成に向けた大学院改革を実行してまいります。
5	学生支援	奨学金制度の充実や、総合的なサポート体制を充実させていきます。
6	入学者の確保、退学者等の減少	学生相談室、保健室等の機能を強化し、学生一人一人に寄り添った支援を行います。
7	キャンパス整備	九段キャンパス、柏キャンパスの学習環境の充実に努めます。

#### IV & V 附属高校の教育改革、附属柏中学校・高校の教育改革

No.	大項目	内容
1	教育改革	建学の精神による全人教育を基にしながら、進学実績を向上させ、グローバル化、ICT化に対応する教育改革を行ってまいります。
2	生徒支援	奨学金制度や特待生制度などの経済的支援を充実させていきます。
3	キャンパス整備	学習環境の充実に向け、ICT設備の積極的導入や各種設備のリニューアルを計画的に行ってまいります。

#### VI 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他

No.	大項目	内容
1	長期ビジョンの推進	長期ビジョン「N'2020 Plan」推進のため、学内の情報共有化、学外への情報発信を推進します。
2	財務	収入の増加策、支出の減少策を着実に実行し、安定的な財務運営を継続してまいります。
3	教職員の育成	「教職協働」の下に、教員の組織的FD活動、事務職員のSD活動を推進してまいります。
4	人事・評価制度、能力開発・研修制度	教職員の積極性を引き出す人事・評価制度の構築と共に、個人の能力開発・研修制度の充実に努めます。
5	組織・権限	理事長のガバナンスの下、改善計画の検討から実行までを迅速化する事務組織、業務手順の見直しを行ってまいります。
6	広報	戦略的なブランディング計画により、本学の社会的認知度を向上させてまいります。
7	その他	外部評価機関からの評価等を活用しながら、着実な学校改革を継続して実施してまいります。

## 2 課別アクションプラン

平成25年度版「全学アクションプラン」の策定を受けて、各事務担当部署では所掌する具体的な課題について「課別アクションプラン」を作成し、年間の「実行計画スケジュール表」によって、計画を管理・推進して参りました。各課の課題の概要は、次の通りです。

課別アクションプランの概要

部署名	主な課題
総務・人事課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員人材の育成</li> <li>●評価制度の見直し</li> <li>●その他</li> </ul>
広報課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●創立者三島中洲の知名度向上に向けた取り組みの実施</li> <li>●二松学舎憲章の学内外への浸透策の実施</li> </ul>
柏事務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生涯学習講座の充実、市民の受け入れ</li> <li>●警備体制の強化</li> </ul>
企画・財務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャンパス整備計画の策定</li> <li>●アクションプラン進捗管理の取り纏め</li> <li>●収入増、経費削減対策の検討・立案</li> </ul>
経理課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部署別予算管理制度の導入</li> <li>●その他</li> </ul>
大学改革推進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●シラバスの充実、ナンバリング制導入等教育の質的転換に向けた学内体制の整備</li> <li>●組織的FD活動の推進</li> </ul>
入試課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アドミッションポリシーに基づく、入学者の確保</li> <li>●入試制度改革の検討、導入</li> </ul>
教務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カリキュラムの見直し、カリキュラムマップの作成</li> <li>●学生ポートフォリオシステムの活用</li> </ul>
学生支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●父母会との連携強化</li> <li>●保健室運営の見直し</li> </ul>
国際交流センター事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●留学生支援(奨学金制度の充実)</li> <li>●双方向交流のための環境整備</li> </ul>
図書課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●千代田区、柏市との連携強化</li> <li>●他大学図書館との交流活発化</li> </ul>
教職支援センター事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員採用試験合格者の増加対策</li> <li>●その他</li> </ul>
就職支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実践的キャリア教育の実施</li> <li>●就職率向上に向けた取り組みの実施</li> </ul>
情報センター管理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ICTの活用と学内ネットワークの見直し</li> <li>●その他</li> </ul>
附属高校事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●難関大学への進学実績の向上</li> <li>●外国語教育の強化</li> </ul>
附属柏中高事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学力向上、難関大学への進学実績の向上</li> <li>●外国語教育の強化</li> </ul>
二松学舎サービス(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業容拡充、収益の向上</li> </ul>



# アクションプラン(平成25年度版)の進捗とその成果

## 1 定性的な成果

### 主な定性的成果(平成25年度)

- 理事・教職員などが、本学の将来の姿、進むべき方向について、共通の認識を持つようになった。
- 各部門で改革を進める意識が強くなり、アクションプランに記された項目が推進しやすくなった。
- 各課長が、各課の課題を多面的・巨視的に把握するようになった。

## 2 具体的な成果

### 主な具体的成果(平成25年度)

#### 大学

- カリキュラムの体系化を図った。  
～カリキュラムにナンバーを付与し(ナンバリング)、カリキュラムマップを作成した。
- シラバス記載内容を見直し、「身に付く力」を追加した。
- 両学部において、キャリア教育を初年次から実施した。
- 国際交流を推進した。  
～英語圏での語学研修(短期)を再開した。  
～ミャンマー連邦共和国商業省との間で「交流覚書」を締結した。
- 学生ポータルサイト・ポートフォリオシステムを利用した新たな学生指導を検討・開始した。
- 教員採用試験合格者数増を目指し、受験指導体制・指導方法を見直し、教員採用者数が増加した。
- 新たな公務員試験対策講座を検討し、平成25年度に一部実施、平成26年度から本格開講することにした。
- 奨学金制度を充実させ、本学独自の奨学金支給者数を増加させた。
- 新学部設置検討委員会を立ち上げ、検討に入った。
- 学生納付金の妥当性を検討、平成27年度入学者から改定することとなった。
- 九段キャンパスで新校舎(九段4号館)の建設を開始した。
- 九段キャンパスの既存校舎について改修計画を作成、平成26年度から工事を開始することにした。
- 柏キャンパス施設の学内共同利用を進めた。

#### 附属高校

- 体育系生徒向けのカリキュラムを設定し「体育コース」を設置した。
- 野球部練習場施設の改修を行い、合宿所改修に向けた検討を始めた。
- 柏グラウンドを整備し、柏での体育集中授業を開始した。

#### 附属柏中学・高校

- 高校において臨時定員増を行い、安定的に入学者を確保した。
- バス駐車場近隣用地を購入した。

#### 人事、財務、その他

- 人事評価制度を改正し、事務職員について、アクションプラン達成のための個人別目標を設定し、その達成度を評価へ反映することにした。

# アクションプラン(平成26年度版)の概要

## 1 全学アクションプラン

平成26年度の「全学アクションプラン」は、基本は「平成25年度全学アクションプラン」を踏襲しつつ、各課題の進捗状況や社会情勢を踏まえて、スケジュール内容の見直しと新たな課題の追加を行いました。分類は前年度同様に「建学の精神と二松學舎憲章」、「大学・高校・中学共通の教育改革」、「二松學舎大学・大学院の教育改革」、「附属高校の教育改革」、「附属柏中学校・高校の教育改革」、「財務、人材育成、評価、組織、広報、その他」の6つに分け、重要度などに応じ、「大分類課題」・「中分類課題」・「小分類課題」に整理しました。

### 全学アクションプランの概要

全学アクションプランの6つの柱	全学アクションプランに掲げた課題の数		
	大分類	中分類	小分類
I. 建学の精神と二松學舎憲章	3	4	5
II. 大学・高校・中学共通の教育改革	1	2	8
III. 二松學舎大学・大学院の教育改革	7	30	109
IV. 附属高校の教育改革	3	10	26
V. 附属柏中学校・高校の教育改革	3	11	34
VI. 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他	7	17	35

こうした確認作業を経て、「平成26年度全学アクションプラン」を作成しました。全学アクションプランの6つの柱それぞれについての平成26年度の重点課題は下記のとおりです。

### 全学アクションプランの平成26年度重点課題

全学アクションプランの6つの柱	平成26年度の主な重点課題
I. 建学の精神と二松學舎憲章	① 創立140周年記念事業に向けた取り組みの開始
II. 大学・高校・中学共通の教育改革	① 柏キャンパスの共同利用ルール策定
III. 二松學舎大学・大学院の教育改革	① 新学部等設置の可否判断 ② 海外協定校の拡充 ③ 語学(英語)プログラムの開講(国際政経) ④ 留学生の受入体制整備 ⑤ 学長のガバナンス強化と、それに伴う教員組織の整備、関連規程の改正 ⑥ 学生ポータルサイト・ポートフォリオを活用した学生指導体制の構築 ⑦ 九段新校舎竣工と既存校舎の改修 ⑧ 教員採用試験合格者の大幅増加 ⑨ 公務員希望者への新対策実施

全学アクションプランの6つの柱	平成26年度の主な重点課題
IV.附属高校の教育改革	①GMARCH以上の大学への進学実績向上 ②成績下位者への補習強化 ③個別指導の強化 ④教員の研修、研究授業の充実による指導力の強化
V.附属柏中学校・高校の教育改革	①GMARCH以上の大学への進学実績向上 ②英語圏への語学研修実施 ③中学校へのグローバルコース設置 ④システムを活用した学生指導体制の構築 ⑤高校の臨時定員増に伴う規模の拡大
VI.財務、人材育成、評価、組織、広報、その他	①奨学金制度の拡充 ②戦略的補助金の獲得 ③事務職員の中長期的SD計画の策定 ④人事評価制度の見直し

## 2 課別アクションプラン

平成26年度は、まず各部課長が前年度の「課別アクションプラン」の達成度合いを、学内の進捗管理システム内へ入力し、学内に状況報告を行いました。その後、各課長と管理部門とのミーティングを実施し、報告された達成度合いを基にして、前年度の「課別アクションプラン」の推進状況や、実行にあたっての問題点について意見交換を行いました。このミーティングを通じ明らかになった点や社会情勢の変化を踏まえ、各部署で、前年度の「課別アクションプラン」を見直し、平成30年度までを期間とした「平成26年度課別アクションプラン」と「実行計画スケジュール表」を作成し、推進して参りました。

各事務担当部署が掲げた課題の概要は、次の通りです。

### 課別アクションプランの概要

部署名	主な課題
総務・人事課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●評価制度の見直し</li> <li>●SD活動、業務の抜本的見直し</li> <li>●施設の適切な管理</li> <li>●経費節減</li> <li>●教職協働の考え方定着化</li> <li>●意思決定の迅速化</li> <li>●大学の事務組織一元化</li> <li>●理事会のガバナンス強化</li> <li>●危機管理と防災対策</li> </ul>
広報課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「N'2020 Plan」の進捗状況について、学内外への情報発信</li> <li>●戦略的広報の確立・展開</li> <li>●地域連携</li> </ul>
柏事務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生涯学習講座の充実</li> <li>●経費節減</li> <li>●施設の適切な管理</li> </ul>

## 課別アクションプランの概要

部署名	主な課題
企画・財務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新学部設置の検討</li> <li>●九段キャンパス・柏キャンパスの整備</li> <li>●奨学金制度拡充</li> </ul>
経理課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部門別予算編成の実施</li> <li>●経費節減</li> </ul>
大学改革推進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新学部設置の検討</li> <li>●教育方針の明確化</li> <li>●教員組織の整備</li> <li>●組織的な連携</li> <li>●カリキュラムの体系化</li> <li>●権限の明確化</li> <li>●戦略的な補助金の獲得</li> </ul>
入試課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入試制度改革</li> <li>●中高大一貫校化の体制整備</li> <li>●新アドミッションポリシーの公表</li> </ul>
教務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中高大一貫校化の体制整備</li> <li>●カリキュラムの体系化とシラバスの充実</li> <li>●授業方法改善</li> <li>●国際化への対応 (国際化教育、語学教育、留学支援、留学生支援)</li> <li>●学生ポータルサイト・ポートフォリオの活用</li> </ul>
学生支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●奨学金制度拡充</li> <li>●課外活動支援</li> <li>●学生ポータルサイト・ポートフォリオの活用</li> <li>●父母会との連携強化</li> </ul>
国際交流センター事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国際化への対応(海外協定校拡充、留学生支援)</li> </ul>
図書課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域連携</li> <li>●他大学との交流</li> <li>●所蔵資料の整備</li> </ul>
教職支援センター事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員養成の強化</li> <li>●教員採用試験合格者の大幅増</li> </ul>
就職支援課	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア教育と就職対策</li> <li>●学生ポータルサイト・ポートフォリオの活用</li> </ul>
情報センター管理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学内ネットワークの見直し</li> </ul>
附属高校事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国際化への対応</li> <li>●教育の実践・充実</li> <li>●生徒募集力の強化</li> </ul>
附属柏中高事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>●国際化への対応</li> <li>●臨時定員増による規模拡大</li> <li>●教育の実践・充実</li> <li>●生徒募集力の強化</li> </ul>
二松学舎サービス(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業容拡充・収益向上</li> </ul>

# アクションプラン(平成26年度版)の進捗とその成果

## 1 定性的な成果

### 主な定性的成果(平成26年度)

- 学校法人全体でPDCAサイクル(Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価)→ Act(改善)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善することが確立された。
- 現場だけでは解決が難しい課題を組織へ吸い上げる体制が確立された。

## 2 具体的な成果

### 主な具体的成果(平成26年度)

#### 大学

- 国際交流を推進した。
  - ～事務組織の再編を行い、国際交流担当者を同業務に専従させる体制とした。
  - ～国際交流推進のための指針として、本学のグローバル化対応ポリシーを策定した。
  - ～ハンガリー国立エトヴェシュ・ロラード大学、中国浙江工商大学と交流協定を締結した。
  - ～ミャンマーのヤンゴン経済大学と交流協定を締結した。
- 教員採用試験合格者数増を目指し、受験指導體制・指導方法を見直し、教員採用者数が増加した。
- 新たな公務員試験対策講座が本格的にスタートした。
- 奨学金制度を充実させ、本学独自の奨学金支給者数を増加させた。
- 新学部設置についての学内方針を決定した。
- 学納金の妥当性を検討、平成27年度入学者から改定することとなった。
- 九段キャンパスで新校舎(九段4号館)が竣工した。
- 九段キャンパスの既存校舎の改修工事がスタートし、九段キャンパスの無線LAN環境の構築と、九段2号館の1・2階のラーニング・コモンズへの改修が完了した。

#### 附属高校

- 奨学金制度を充実させ、本校独自の奨学金支給者数を増加させた。
- 野球部が第96回全国高等学校野球選手権大会、第87回選抜高等学校野球大会に夏・春連続出場を果たした。
- 生徒との二者面談の実施や成績不振者の補習を必修化するなど、個別指導を強化した。

#### 附属柏中学・高校

- 奨学金制度を充実させ、本校独自の奨学金支給者数を増加させた。
- 高校において臨時定員増を行い、安定的に入学者を確保した。
- スタディサポートシステムを開始し、生徒の学習習慣の改善と学力の底上げができた。
- 希望した生徒に対して、英語圏での語学研修を初めて実施した。
- 中学校で平成27年度からグローバルコースを設置することとした。

#### 人事、財務、その他

- 文部科学省の補助金「私立大学等改革総合支援事業」の「タイプA:教育の質転換型」に昨年度に続いて2年連続で採択された。
- 人事制度として、若手の管理職未満の職員を対象とした「年間最優秀事務職員表彰制度」を新たに導入した。
- 事務職員の中・長期的な能力育成計画、研修計画についての検討がスタートした。
- 各部課長と業務効率化についてのミーティングを行い、業務上の問題点を抽出した。

## 1 今後の課題

長期ビジョン「N'2020 Plan」を策定したのち、アクションプランを作成し、約2年間活動を行って参りました。「N'2020 Plan」では、本学の将来像や教職員の行動規範である「二松學舎憲章」を示し、「全学アクションプラン」、「課別アクションプラン」では将来像を実現するための具体的な行動計画を示しました。今後、アクションプランをより一層推進していくに当たっての課題は、以下の通りであり、その進め方も含めて説明いたします。

### 1 アクションプランの継続

本学の将来のあるべき姿を実現していくのに最も重要なことは、アクションプランを永く「継続する」ことです。継続することによって、計画や実行方法に工夫・改善が加えられ、目標が達成されやすくなります。また、継続することによって、本学の教職員に「N'2020 Plan」の理念が一層浸透し、この理念に沿った発想や行動を行うことが可能となり、本学の風土として根付くと信じております。

### 2 事務職員の能力強化と教職協働体制の確立

アクションプランを主体的に推進していくのは事務職員です。そのため、アクションプランの成否の鍵を握っているのもまた事務職員であり、とりわけ事務職員一人一人の企画立案や教員に対する提案能力、課題解決力によるところが非常に大きいと言えます。

以上のことから、専門分野の事務職員を増員していくほか事務職員の能力育成・強化をより一層図っていくことが、アクションプランの成否に直結する事項となりますので、非常に重要な課題であると考えています。

「アクションプラン(平成26年度版)の進捗とその成果」(12ページ)にも記載させていただきましたように、中・長期的な視点に立った事務職員の研修制度や能力の育成計画について、現在検討が進められております。育成計画の確立は急務と言え、検討母体として、「SD(Staff Development)委員会」を立ち上げました。FD(Faculty Development)についても、体制の充実が急務であり、これを進めて参ります。

また当然のことながら、諸改革を進めていくためには教職協働体制も不可欠です。学長を中心とした教学執行部を中心に、入試委員会や教務委員会等との連携も図りながら、改革を推進していくことが肝要です。

### 3 情報の共有と連携強化

アクションプランの課題は、大きく分けて2つのタイプに分類できます。1つは、部署単独で推進が可能なもの、もう1つは、業務内容が複数の部門にまたがるため、それぞれが協力して推進していく必要がある「部門横断型」のものであります。

アクションプランの課題の多くは、後者の「部門横断型」にあたります。そして、課題の進捗が当初思い描いていたようには進まず、進捗に遅れが生じている課題の多くもまた、後者の「部門横断型」の課題です。こうしたことから、「部門横断型」の課題の改革スピードを上げていくための方策が重要になると考えています。

「部門横断型」の課題を推進するに当たっては、担当部署間の情報の共有と連携が必要不可欠です。アクションプランを策定したことで、学校法人全体の進むべき方向性が明示され、各部署が同じ方向を向いて課題を推進するための土台は醸成されつつあります。

今後はこの土台を固め、部署間の連携を今まで以上に強化するため、課題推進に当たっての情報の共有化や、部署間の連携が今以上にスムーズになるような組織再編を進めたいと考えております。それによって各部署の取り組みが今まで以上に有機的に結びつき、結果として課題進捗のスピードアップにつながると考えております。

#### 4 既存業務の効率化

アクションプランの遂行に当たって、各担当者は従来の業務に加え、アクションプランの推進に係る業務負担が増加することになります。このため、既存業務の効率化を図ることは必須であり、これにより各担当者はアクションプランを加速していくことが必要です。

業務効率化は、各担当者がアクションプランの推進に係る業務にどれだけ尽力できるか、どれだけ時間を割くことができるか、スケジュール通りに進めていく上で、非常に重要なポイントの1つであると考えています。省略化できる業務は積極的に省略化し、不要な業務は思い切って廃止するといった、「業務のスクラップ&ビルド」の思考を学内全体に浸透させ、各担当者にアクションプラン推進のための業務に尽力してもらう体制を整える必要があると考えております。

業務効率化を推進するため、平成26年度からは、管理部門と各部課長で業務の効率化についてミーティングを実施し、意見交換を行い、「課別アクションプラン」実行にあたっての問題点、効率化できると考えている業務を抽出してもらい、解決できるものについては可及的速やかな実行をお願いしており、今後もこの取り組みを継続し、学内全体で業務効率化へ向けて取り組んで参ります。

##### 今後の課題

課題	課題の推進による効果
(1) アクションプランの継続	① 実行方法に工夫・改善が加えられ、目標達成へ近づく ② 「N'2020 Plan」の理念が浸透し、風土として根付く
(2) 事務職員の能力強化と教職協働体制の確立	① 企画立案・提案能力、課題解決力を強化し、諸課題の改善を促進 ② SD・FDの体制充実・推進
(3) 情報の共有と連携強化	① 「部門横断型」課題の進捗スピードアップ
(4) 既存業務の効率化	① 既存業務を省力化し、各担当者がアクションプラン推進のための業務へ注力する体制を構築

最後になりましたが、長期ビジョン「N'2020 Plan」を実現するため、「アクションプラン」を通じた本学の改革に向けた活動を今後も継続してまいりますので、関係者の皆様のご理解とご協力をお願い致します。



学校法人二松學舎

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16 TEL 03-3261-7407